

X07c 天文カタログデータ管理公開システムの開発

中嶋浩一（国立天文台客員／一橋大学）、浜部勝（東京大学理学部天文学教育研究センター）、市川伸一、伊藤孝士、高田唯史、西村史朗（国立天文台）、洞口俊博（国立科学博物館）

国立天文台天文学データ解析計算センター（Astronomical Data Analysis Center、以下 ADAC）では、国立天文台の発足以来、天文カタログデータの収集頒布の国際協力事業に参加し、その日本におけるセンターとしての役割を果たしてきた。しかし近年になって、高速のワークステーションの普及、ネットワークの広範な普及およびその高速化、などの著しい状況の変化により、このような状況に対応した新たな天文カタログデータサービスシステムが必要となってきた。そこで ADAC ではこのほど、これらの新しい状況に十分に対応し、かつ近未来の情報ネットワークの発展をも視野に入れたサービスシステムを開発し運用を開始したので、そのシステムの概要、利用方法などについて報告する。

サービスシステムは、ADAC 内のワークステーション（呼称 adac）に、磁気ディスク約 21GB、ジュークボックス式の 500 枚の CD-ROM 装置、などを接続したものとなっており、この中にこれまでに machine readable 形式で公表された天文カタログのほとんどすべてを収納している。

これらを利用するには、次の 2 つの方法により adac.mtk.nao.ac.jp にアクセスする：

- <ftp://adac.mtk.nao.ac.jp/>
- <http://adac.mtk.nao.ac.jp/> 。

前者はいわゆる anonymous ftp である。カタログデータはディレクトリ pub の中にあり、またその詳しい利用法が、英語や各種の日本語漢字コードで記述された README.??? に説明されている。後者はいわゆる WWW であり、利用法は home page に説明されている。